

profile

1965年神奈川県出身。東京大学大学院修士課程修了。石川島播磨重工業株式会社(当時)に入社。96年、宇宙飛行士候補者に選定される。2005年7月、スペースシャトル「ディスカバリー号」のミッションに参加。09年には、日本人として初めてソユーズ宇宙船に搭乗。通算宇宙滞在期間177日3時間半は日本人最長。



出典: JAXA/GCTO

JAXA 宇宙飛行士

野口

NOGUCHI Soichi

プロサッカー選手

宮間

MIYAMA Aya



profile

1985年千葉県出身。高校卒業後、岡山湯郷Belleに入団。2003年から日本女子代表(なでしこジャパン)としても活躍。09年にアメリカ女子プロリーグに移籍。現在は岡山湯郷Belle所属。ロンドンオリンピックではなでしこジャパンの主将を務める。2011年、2012年連続でアジア年間最優秀選手に選ばれる。ポジションはミッドフィルダー。



2011年FIFAワールドカップで優勝を果たしたなでしこジャパン。「他国の選手と積極的にコミュニケーションを取るのがなでしこ流です」写真: AP/アフロ



2012年にサウジアラビアで開催された「第25回世界宇宙飛行士会議」に出席した野口さん(左)。アジアの宇宙開発をリードしていく存在だ

世界に出て宇宙が見えた

目 本という枠にとらわれず、もっと広いフィールドで自分の力を試したい。宇宙飛行士を志したのは高校生の時。その夢をかなえるために、世界という大きな舞台上で通用する人間になりたいとずっと思っていました。

アフリカからヨーロッパ、中央アジアを抜けて、中国、そして日本。初めて宇宙に出た時、そこから見た地球は“一つの共同体”でした。どの宇宙飛行士も、最初の数日は自分の“国”や“大陸”に目がいくと言います。しかし日がたつにつれて、目の前の青い球体を大きな塊としてとらえるようになり、最後には「地球は一つなのだ」という認識に達するのです。そこにはや国境はありません。

宇宙飛行士は世界各地からの代表者でチームを構成します。国も文化も、考え方もさまざまです。同じ目的意識を持ちつつも、その達成に向けたアプローチは微妙に違うので

す。その中で、日本人に共通しているのが“和の精神”。相手の意見を聞く力、チームをまとめる調整能力などは、周りからも特に期待されている強みです。

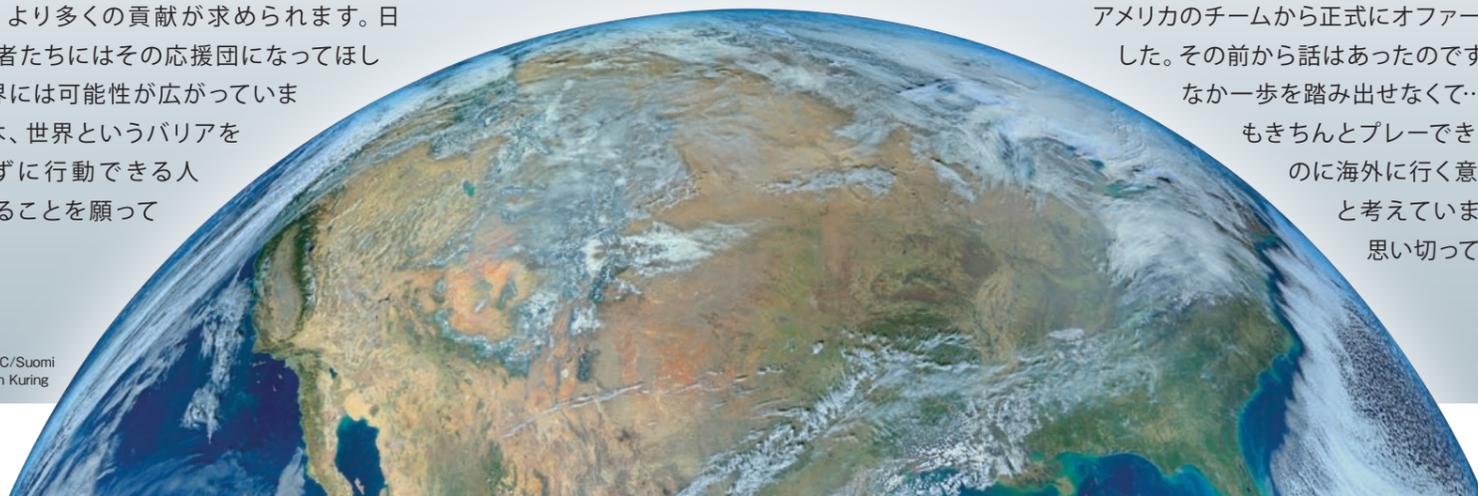
2012年秋、世界中の宇宙飛行士から構成される宇宙探検家協会にアジア支局が設立され、私が支局長を務めることになりました。アメリカ、ロシア主導で進んできた宇宙開発ですが、これからはアジアも力を発揮していく時代。大きな一歩です。

私たち日本人宇宙飛行士はアジアの代表として、より多くの貢献が求められます。日本の若者たちにはその応援団になってほしい。世界には可能性が広がっています。日本、世界というバリアをつくらずに行動できる人が増えることを願っています。

聡

あや

NASA/NOAA/GSFC/Suomi NPP/VIIRS/Norman Kuring



サッカーで世界とつながる

サ ッカーを始めたのは6歳のころ、父がサッカーチームをつくったのがきっかけでした。“世界”を意識するようになったのは、小学5年でアメリカに遠征してから。大きなグラウンドでものすごい数の女の子がプレーをしていて、日本では考えられない光景に衝撃を受けました。いつか世界と対等に戦える選手になりたい。この時試合に勝てなかった悔しさもあり、そんな思いを抱くようになりました。

北京オリンピックに日本代表として出場後、アメリカのチームから正式にオファーを受けました。その前から話はあったのですが、なかなか一歩を踏み出せなくて…。日本でもきちんとプレーできていないのに海外に行く意味はないと考えていましたが、思い切って挑戦して

本当によかった。日本では決して得ることができない経験、仲間との出会いが、今の日本でのプレーにも確実に生きています。

一番やりがいを感じるの、勝っても負けても、仲間と心がひとつになった時です。国や性別、人種などすべての壁を取っ払って、人がつながり合えるのがサッカーの魅力なのです。ボールひとつでここまで強いはずが生まれる。世界を舞台に戦うようになってそう強く思います。

全力を尽くして勝利を得た瞬間の感動は、とても言葉では表現できません。自分が“こうなりたい”という思いがあれば、自然と道は開けてくるもの。内向きと言われる日本の若い人たちにも、まずは思い切ってやってみてほしい。私が今すべき仕事は、これまでと変わらず努力を続けること。日本の女子サッカーの流れをもっと上向きにできるよう、前に進んでいきます。